

昭和三十一年度
本 幼稚園教育指導者講座概況報告

山口県教育委員会指導主事 名 島 貢

本年度西日本幼稚園教育指導者講座の引き受け県の一役員として、その企画運営のお世話をさせていただいたものの、会期中はまったく楽屋裏でただ雑用に追いまくられたというだけで、講義や研究協議の内容的なものももちあわせていないので、報告書としてはご期待を裏切るかもしれないが、責任上一応その経過と講座の概要についてご報告をもうしあげたい。

実は昨年度岡山での幼稚園教育研究集会にはじめて参加して先進県の実態にふれ、山口県もこれから本腰を入れてやらなければいけないと痛感していたやさき、文部省から本年度の標記指導講座の引き受けを要請せられ、本県としてはまったくめんくらったわけである。それだけに、いよいよ四月に開催引き受けが決定せられて以来の目まぐるしさというものはたいへんなものがあった。

新しい幼稚園教育要領が刊行せられ、県としても幼稚園教育課程を再検討して改善

しなければならぬという課題と、大会開催の諸準備を併行してやらなければならぬ立場に追いつめられたわけである。そこでまず大学、現場、県関係を召集して、五月以来教育課程作成のための研究協議会が数次にわたって開催せられた。ところがこれがなかなかの大事業で、女先生の中にはたびたびの召集や宿題で悲鳴をあげた人も少なくなかった。最初夏休みまでにこれを完成する予定が、とうとう秋風が吹きはじ

(一) 日程表

日	時間	前日	第一日	第二日	第三日	第四日
	8.30		受付 開会	講 演	班 別	ま と め の 班 別 の 質 疑
	9.00		説明 講	班 別 研 究	研 究	研 究
	9.30		班 別 研 究 打 合			
	10.00					
	11.00					
	11.30					
	12.00					
	12.00			昼 食		
	13.00		事前打合せ 委員、各府県代表者 指導者、司会者	班別研究 (班別の講義を含む)	班別研究 (班別の講義を含む)	班別研究 (班別の講義を含む)
	16.00					
	16.30					合同運営委員会

める頃になって、ようやく「教育課程作成資料(望ましい経験の分析)が生まれ、つづいて文部省幼稚園教育要領に基く「教育課程基準表」が刊行されたことは、本県幼稚園教育発表のために大きな意義をもつものであった。

またこの資料は本講座の第一班(指導計画)の山口県資料として提出せられ、他県の参加者からも好評を得たので、その労もまた報いられたわけである。
さて本年度指導者講座の開催要項については、すでにご承知のことと思うが一応順序として簡単に記すことにする。
昨秋十月十四日(日)―十月十七日(水)の四日間山口市山口大学教育学部を会場とし

(二) 講師ならびに指導者

講演 1. 幼稚園教育要領について

文部省初等特殊教育課課長補佐 奥田真丈氏

2. 幼児の心理と生活

山口大学教育学部講師 吉元勇氏

指導者 山口大学・山口女子短期大学・県教委指導主事・教育研究所主事など十五名
て愛知・富山以西二十八府県の参加者二十六名(記録・補助員を含む)の参集を得て、前記日程によって開催せられた。

このほか山口大学教育学部長松村敏雄氏の講演が予定されていたが、先生の都合で第一日にくりあげられ、挨拶をかねて「幼稚園教育と教師のあり方」についての講話があった。

(三) 班別研究主題

班	1. 指導計画	2. 健康	3. 社会	4. 自然	5. 言語
研究主題	年単位、日単位の指導計画の適切なくくりかたは、どのようにしたらよいか。	運動や遊びの指導はどのようにしたらよいか。(安全危害予防を含む)	友だちと仲よくしたり協力したりする指導は、どのようにしたらよいか。	自然に対する観察態度の助長は、どのようにしたらよいか。	すすんで話しをする指導は、どのようにしたらよいか。

この講座はここ二、三年間幼稚園教育研究集会として開催せられ、例年教育上の主要課題を取り上げ、それを解決するための手がかりとして実演授業も繰り入れて参加者の研究討議が行われ、会員の資質向上とその成果を累積交流することに主体がおか

山口大学教育学部講師 吉元勇氏
れていたようであるが、本年度から名称も指導者講座とかわり、指導者としての基礎的教養と指導能力を高めることにねらいがおかれてきたことである。
したがって本講座においては、実演授業や施設設備の見学などを排して、もっぱら指導者の講義をきくことと、参加者の研究討議にじゅうぶんの時間をふりあて、実質

的な研修に重きがおかれたわけである。
これについて本年度の参加者中に多少異論があったようであるが、その理由はせっかく山口県まで出向いたのであるから、開催の変わった施設設備や実演授業も見て帰りたいという希望のようであった。そのた

めに第四班はわざわざバスを仕立て、近郊の幼稚園を見学にいかれたようである。

(四) 幼稚園絵画作品展覧会

本年度講座の研究主題や実演授業の欠を補い、かつ本県幼稚園児の絵画作品に對してきたんき批判を仰ぎたい意味においてこれを開催した。なお、これをあわせて校商會や宮武辰夫氏の好意によって、全国幼稚園絵画優秀作品二十点を、宮武先生指導の園児作品ペーパープリントなどと陳列ができたことは、意義深い企であったと思う。

(五) 全体討議

各県代表者を主体とする合同運営委員会において、最終日に全体討議の時間を設けるようになった。かねて参加者より提出せられた左記議題について協議ならびに指導が行われた。

協議題

1. 幼稚園と家庭教育との関係について
指導者 松村
2. 幼稚園設置基準について
同 奥田
3. 教育要領に示された望ましい経験の基準性について
同 奥田
4. 幼稚園と小学校との関連について
5. 農村における幼稚園と保育所との関係およびそのあり方について

要望事項

1. 幼稚園にも小学校同様学校給食を法制化してもらいたい。

第二班の代表から授業理由が説明せられ、西部会場参加者一同の名において文部大臣あて、右事項を要望することを全会一致で可決した。奥田氏に託して提出済。

全体討議の司会者に兵庫県代表蔭山指導主事、副司会者に山口県伊藤指導主事が指名せられ、この両氏の名司会によって、手ざわよく協議が進められ、きわめて効果的であった。

ついで閉会式にうつり、山口県藤本教育長の閉会の辞につづいて、参加者代表福岡西南学院高橋さやか氏の謝辞があり、最後に全員幼稚園讃歌を合唱、和気あいあいのうちに手後一時よりバス数台をつらね天下の名勝秋芳洞を探勝し、意義深い四日間の講座に終幕を告げたことは喜びに堪えない。会期僅かに四日間ではあったが、事前事後を通じて本講座をお世話さしていただいた一人として、私自身もたいへん多くの勉強と貴重な経験を得たことを無上の光榮とすると同時に、指導者の熱心なご指導と参加者各位がよせられた温かいご協力に対し、心から感謝の言葉をもうしあげ、はるかにご健闘を祈りつつ筆をおく次第です。

第五回全国幼稚園施設研究大会

浅野寿美子

昭和三十一年十一月九、十日名古屋市公会堂で第五回全国幼稚園施設研究大会が開催され、参会者一、二〇〇余名で非常に盛会であった。

会は開会前日市内各幼稚園の自由參觀および二日間にわたって講演（一、幼稚園の諸問題 文部省初等・特殊教育課長 上野芳太郎氏、二、アメリカの印象 名古屋大學長 勝沼精藏氏）研究発表（文部省助成課長 今村武俊氏の施設と設備の問題、大阪市立愛珠幼稚園の運動遊具の効果的使用と改善について、他五幼稚園）分科会（別記）映画、幻灯が行われた。次に簡単に分科会の模様を述べてみよう。

○第一分科会 保育室の環境設定

指導者

文部省助成課長 今村武俊、文部省指導課 池田伝蔵、名古屋建設局建築部長 一円俊郎、名古屋市教育局委員 大西久治

(1) 保育室は、机、腰掛の大きさ配置などによって広さを求め、机は保育計画から一人用か二人用かなど、決定され、背のもたれのあることの要、不要、もたれは一〇〇

度位の傾斜のあるものが欲しい。塗板は最近白色系のもが製作され、チョークさえよければこれがよい。移動式のもののほうが便利などの論がでた。

(2) 室の色彩は、明度九〇六のものとし、彩度（あざやかさ）色相（いろあい）も考える。

(3) 園舎の木造、鉄筋コンクリート造の可否論がでたが、どちらにも一長一短がある。

(4) 広さは最少限一六坪必要で、これにプラス「テラス」部分がほしい。二〇坪とっても机を並べると三分の一ぐらいの活動面積しか残らない。矩形型、正方形型があるが、幼児の生活の場としてよいものを今後考えたい。学級数の多い園では園舎を分散形式としたい。天井高さは、保育室は幼児本位に考えると低い方が使いやすく法的にも二・七メートル位でよい。遊戯室は使用目的によってきまる。

○第二分科会 施設設備の管理（改善を含む）